



その先の、道へ。北海道

Hokkaido.Expanding Horizons.

2018年は北海道150年

北海道創生総合戦略に基づく主な取組について

2018年11月
北海道総合政策部

北海道価値の磨き上げ

暮らしの「質」を高める

1. 安心のまち・暮らし
「住まいる北海道」
プロジェクト

域内循環で「価値」を高める

2. 北のめぐみ
「資源・ひと・経済好循環」
創出プロジェクト

北海道産業の競争力強化

基幹産業の「成長力」を高める

3. 未来を拓く
「攻めの農・林・水産業」
確立プロジェクト

域外からの「稼ぐ力」を高める

4. 輝く
「アジアのHOKKAIDO」
創造プロジェクト

人や地域の「結びつき」を高める

5. 多様な交流・連携と「北海道型地域自律圏」形成プロジェクト

人・資金を「増やし」「逃さず」「呼び込み」「定着させ」「価値を高める」

人口減少・危機突破

安心のまち・暮らし「住まいる北海道」プロジェクト

～ ライフステージに応じた少子化対策の推進と子どもの確かな成長を支える環境づくり ～

【結婚支援】

◆結婚サポートセンター

「北海道コンカツ情報コンシェル」の運営

結婚に関する相談対応やセミナー等の開催、総合ポータルサイトによるイベント情報の提供など、結婚を希望する方々への支援を実施



【妊娠・出産支援】

◆妊産婦安心出産支援

分娩可能な医療機関がない地域の妊産婦に対し、健診・出産時の交通費等に係る道独自の助成を実施

◆特定不妊治療費の助成

高額の治療費がかかる特定不妊治療に対し、国の制度による助成に加え、道独自の助成を実施

◆不育症治療費の助成

流産や死産を繰り返す不育症の原因特定のための検査・治療に要する費用に対して助成を実施



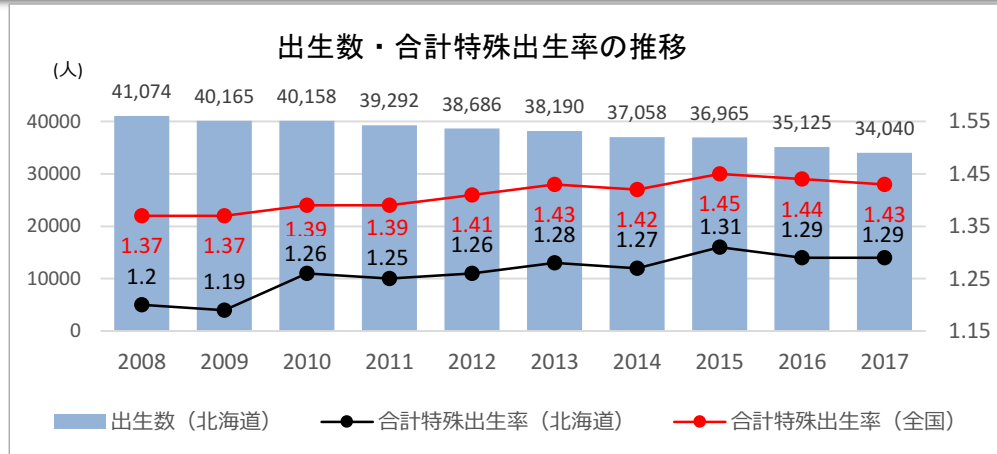
【子育て支援】

◆多子世帯の保育料軽減支援

市町村が実施する第2子以降の3歳未満の乳幼児に係る保育料の無償化に要する経費に対し、道独自に支援を実施

◆保育士の確保と専門性の向上

- ・保育現場でのリーダー的職員を育成する研修を実施
- ・保育士資格の取得を目指す学生に対する修学資金や保育補助者の雇上費用等に係る貸し付けを実施



子どもの貧困対策の強化

◆地域ネットワークの構築

地域における子どもの貧困対策の促進に向け、道、市町村、企業、NPO団体等が参画し、地域の実情に応じた効果的な連携手法や支援方策の検討等を行う振興局単位の支援ネットワークを構築

◆子どもの居場所づくりの推進

食事の提供をはじめとした「子どもの居場所づくり」に取り組む7市町村を支援
(恵庭市、洞爺湖町、音威子府村、天塩町、芽室町、弟子屈町、中標津町)

◆ひとり親家庭等への支援

母子家庭の母親等に対する就業支援、地域住民や大学生等による子どもの学習支援などを実施



実績 出産や不妊治療等への助成、保育料の軽減など、「結婚」「妊娠・出産」「子育て」のライフステージに応じたきめ細かい支援を強化するとともに、保育士の確保対策など少子化対策に向けた環境整備を強化。

課題 依然として合計特殊出生率は全国平均を下回って推移しており、ワークライフバランスの推進など少子化要因を踏まえた総合的な対策が必要。

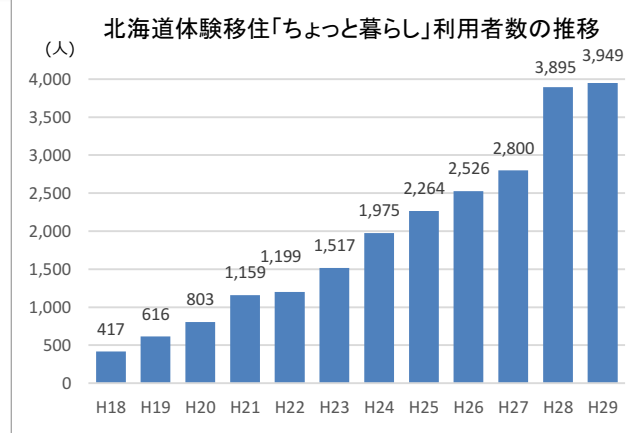
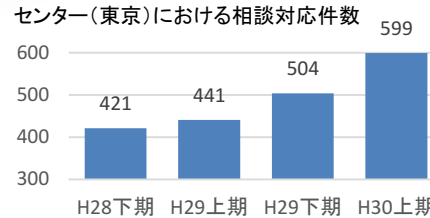
安心のまち・暮らし「住まいる北海道」プロジェクト

～ 多様な人材の活躍促進と呼び込みの強化 ～

【移住・定住の推進】

◆「北海道ふるさと移住定住推進センター」の運営

- ・本道への移住相談のワンストップ窓口として東京交通会館内に設置・運営
- ・本道への移住に関するセミナー等を集中的に開催する「北海道ウィーク」を夏・冬の2回実施



◆若者の道内定着と地域還流の促進

- 道内都市部の学生等が、各地域の課題解決に向けた実践活動を通じて、地域への関心や愛着を高めるための仕組みを構築
- ・地域での実践活動(8～9月実施)
 - ・実践活動報告会(12～1月実施予定)

活動地域	実践活動(プロジェクト)の概要
厚真町	特産品等の地域資源に着目し、働く魅力を見だしてインターン受入先を開拓
下川町	木材の加工や製品づくり、WEB販売など木材の6次化事業を体験
森町	関係者に取材し、林業の魅力伝える広報誌を作成
羽幌町(天売島)	空き店舗を活用し、観光客と住民との交流拠点を設置
帯広市	札幌圏を訪れる外国人観光客に、十勝の食材など地域の魅力を発信

【多様な人材の活躍促進】

◆子育て女性の再就職の促進

- 再就職に向けた不安解消セミナーや職場体験、合同企業説明会の開催などに加え、個々の就職活動から就職に至るまでのフォローアップを実施
- ・合同企業説明会(8～10月)
 - 開催地：苫小牧市、岩見沢市、小樽市、室蘭市



◆女性の社会参画の推進

- ・総合相談窓口「女性の活躍支援センター」の運営のほか、ポータルサイトやSNSによる情報発信・交流の促進
- ・自宅等での起業やコワーキングなど多様な社会参画の実例を学べる「アクションHIROBA」を開催(10月：かでの2・7)



◆生涯活躍のまちづくり

- 市町村間のネットワーク化による情報共有・連携体制の構築を図るとともに、移住施策と一体となった首都圏等へのPRを実施

地域への認知・関心層の拡大と関係人口の創出

【首都圏若年者の誘致・交流】

潜在的な北海道関心層を掘り起こし、地域と関わる仕組みを構築

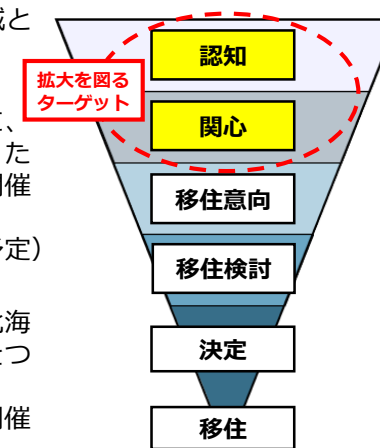
◆「北海道とつながるカフェ」の開催

- 道内で暮らし活躍している方をゲストに、北海道の暮らしや仕事などテーマを絞った情報提供や意見交換ができる交流会を開催
- ・「北海道とつながるカフェ」開催(7～2月：毎月1回、計8回開催予定)

◆関心層のネットワーク化

- SNSなどを活用し、カフェ参加者や北海道に興味のある若者と、道内移住者等をつなぐネットワークを構築
- ・「北海道ともっとつながるカフェ」開催(11月開催予定)

《移住ファネル》



【関係人口の創出】

◆地域とつながる機会の提供

- ・首都圏等の都市部住民が、地域づくり活動などに関わりながら、「関係人口」として地域とつながる機会を提供
 - ・各市町村が「サポーター倶楽部」を設置するなど、継続的に関わりを持つ仕組みを構築
- 《受入モデル5市町村》
苫小牧市、長沼町、奥尻町、占冠村、美幌町

実績

東京に設置したセンターでの相談件数が増加、「ちょっと暮らし」利用者数も右肩上がりです。また、首都圏の関心層の掘り起こしや都市部学生の地域還流など、若年層を中心とした施策を強化。

課題

北海道への関心層や関係人口の拡大を、将来的な移住に結びつけていくための更なる展開が必要。

北のめぐみ「資源・ひと・経済好循環」創出プロジェクト

【働き方改革の推進】

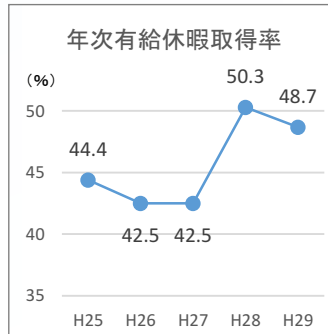
◆「ほっかいどう働き方改革支援センター」の運営

企業の就業環境の改善などに係る包括的な支援のワンストップ拠点として「働き方改革支援センター」を運営

- ・企業の就業環境の整備に係る相談に対応
- ・人手不足が深刻な業界団体などと連携し、業種毎の特性を踏まえた「働き方改革プラン」を作成

◆中小企業の就業環境の改善

働き方改革に積極的に取り組む企業の認定制度の創設や振興局による地域企業へのハンズオン支援（事業段階に応じた伴走型支援）を実施



【官民連携による地域の取組支援】

◆「北海道創生プラットフォーム」の形成

地域創生のためのプロジェクト実施にあたって専門人材を求める市町村と企業や民間人材をマッチングする仕組みを構築・運営



企業と市町村の交流会の様子
H30.8.30

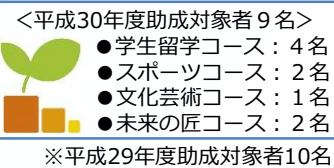
<取組の流れ>

- ①：市町村プロジェクトの登録（5月）
 - ②：東京運営会議を開催、民間の視点からプロジェクトの磨き上げ（6月）
 - ③：企業説明会を開催、プロジェクト情報を事前提供（7月）
 - ④：企業と市町村との交流会を開催、マッチングの機会を創出（8月）
- ※以降、個別協議や現地視察などへの進展をフォローアップ

【未来を担う人づくり】

◆海外へ挑戦する若者を支援

若者の海外留学や、スポーツ指導者、芸術家、職人を目指して海外で資質向上に取り組む挑戦を「ほっかいどう未来チャレンジ基金」により官民をあけて応援



北海道大学
立岩 丈武

【学生留学コース】

農業大国オーストラリアの大学などにおいて、大規模農業を持続させるポイントや海外のバイオマス資源などについて学ぶ



SPORTS LIFE DESIGN
IWAMIZAWA
梅村 拓未

【スポーツコース】

子どもの発達段階を考慮したボール運動指導プログラム「バルシューレ」について、ドイツの大学などで実践的に学ぶ



フリーランス
家具デザイナー
鴻野 祐

【文化芸術コース】

フィンランドのアアルト大学のウッドプログラムを受講し、生態系や林業の中の「木」について学ぶ



(株)巨の上の
わくわくカンパニー
服部 大地

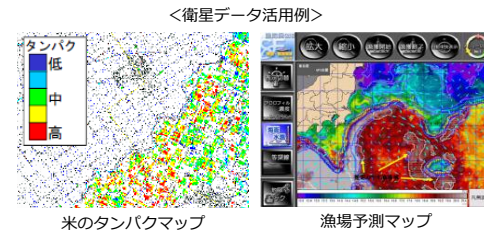
【未来の匠コース】

スローフードやアグリツーリズム発祥の地であるイタリアにおいてハーブや乳製品、ジビエ食材等の地域資源を活かした伝統の調理法を学ぶ

新たな価値を創造する地域産業の育成・強化

◆宇宙分野における新ビジネスの創出

企業や研究機関、行政等で構成する「北海道衛星データ利用ビジネス創出協議会」を設立し、衛星データ利用に関する情報提供や事業化に向けたプロジェクトチームによる検討などを実施



◆エネルギーの地産地消の推進

・地域新エネルギー導入コーディネーターを配置し、事業の掘り起こしから事業・収支計画の立案、実施までを支援

・エネルギーの地産地消のモデルとなる取組に対し、検討・設計段階から設備導入・運営まで複数年にわたり支援

《地産地消モデル事業5件》

- ①畜産バイオマス：上士幌町
- ②地熱：弟子屈町
- ③スマート街区・木質バイオマス・雪氷冷熱：南富良野町
- ④風力・水素利用：稚内市
- ⑤風力・太陽光・水素：石狩市

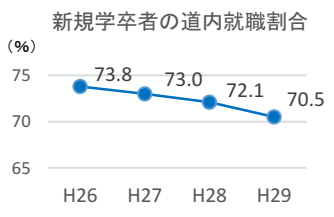


◆地域経済活性化に資する起業を支援

地域課題の解決に資する優れた創業計画を募集・選出し、クラウドファンディング型ふるさと納税の仕組みを活用して、初期投資の一部を助成

◆キャリア教育・産業教育の充実

- ・各産業分野の連携により、本道基幹産業におけるインターンシップやグローバル人材の育成に向けた疑似留学等を実施
- ・自治体や産業関係機関等との協働で地域課題の解決を図る実践研究を行う「高等学校OPENプロジェクト」を展開



実績	北海道の未来を担う若者を育成する基金の創設など人材育成施策の充実とともに、働き方改革の推進に向けた地域の中小企業へのハンズオン支援など取組を強化。
課題	働き方改革の着実な推進や若者の道内定着に向けた更なる取組が必要。また、市町村の地域創生プロジェクトと企業等とのマッチング事例を積み重ねていくことが必要。

未来を拓く「攻めの農・林・水産業」確立プロジェクト

【農業の競争力の強化】

◆先端技術によるスマート農業の推進

- スマート農業技術の戦略的な導入に向けた情報発信や人材の育成を推進
- ・ポータルサイトによる情報発信
 - ・スマート農業フェア標茶の開催（7月）
 - ・ICT農作業機実践研修の実施（8月：2回）
 - ・農業高校生の実践講座の開催（8月：1回）



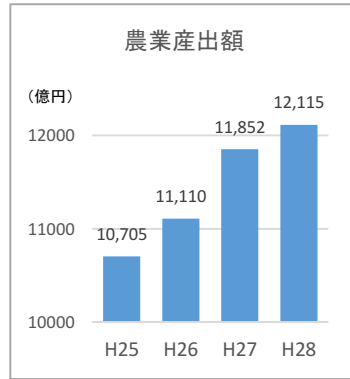
ロボットトラクタによる作業

◆企業と地域農業との連携を支援

- 農業経営の体質強化を図るため、農業者と経営資源を持つ農外企業とのマッチングを支援
- ・民間企業との連携に向けた普及啓発活動（7月末現在：道内10回）
 - ・民間企業との連携に向けた事業支援・指導（7月末現在：1社）
 - ・企業のノウハウを活用した効率的な物流手法の検討

◆酪農・畜産のグローバル化対策

- 生乳生産基盤の強化や草地の植生改善、工房チーズの品質向上、豚肉の販売力強化など総合的な取組を推進
- ・養豚生産者団体による意見交換会（6月：札幌市）
 - ・消費拡大イベント開催等への支援（9月：札幌市）
 - ・工房チーズの品質向上に向けた研修会（9月、11月）



【次代を担う人材の確保】

◆林業大学校の設立に向けた取組

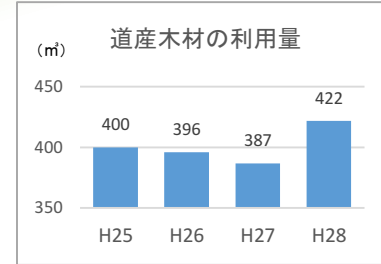
- ・外部有識者によるカリキュラムや講師等の検討
- ・カリキュラムや施設、フィールドに関する地域での意見交換
- ・開校に向けたPR冊子の配付



【林業の新たなブランドづくり】

◆道産CLTの利用促進

- ・CLT建築の設計・施工技術者育成に係る研修（11月：札幌市、旭川市、函館市、帯広市）
- ・CLT床遮音性能に関する調査研究の実施
- ・ジャパンホームショー2018でのPR（11月）
- ・WOODコレクション2019でのPR（1月）



◆道産木材製品の販路拡大

- 道産木材の強みを活かしたブランド戦略を検討するとともに、国内外の展示・商談会への出展などプロモーションを展開
- ・販路拡大に向けた協議会の設置（訴求層別PR手法の検討）
 - ・食王国・北海道レセプションでのPR（10月）
 - ・韓国の木材見本市でのPR（2月）
 - ・木材関連業者等を対象としたブランド戦略研修会（3月）



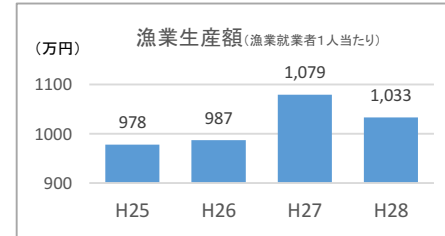
【水産業の持続的な発展】

◆資源増大魚種の消費拡大

近年水揚げが増加しているイワシ・サバ・ブリを新たな水産資源として有効活用するため、消費者への食習慣の普及を図るとともに、生産者団体が行う販売促進の取組を支援

◆日本海漁業の新たな操業モデル構築

共同化グループで実施する養殖業と漁船漁業を組み合わせた複合的操業モデルを創出



実績

農業従事者の減少や高齢化による労働力不足に対応したスマート農業の推進や道産CLTの利用促進、資源増大魚種の消費拡大など、農林水産業の成長産業化や持続的な発展に向けた取組が進展。

課題

6次産業化など高収益・高付加価値化に向けた取組や、農林水産業の担い手の確保に向けた更なる取組が必要。